仲間とかかわり合いながら「できる」「わかる」喜びを味わわせる体育学習
～「ぼくたち　わたしたち　なわっ子たんけんたい」を通して～

大山町立名和小学校　井上菊子　梅林美智子

1　はじめに

西伯郡では，「未来へとたくましく生きる体づくりができる子どもの育成をめざして～友だちとのかかわり合いを生かした学習の流れの工夫を通して～」というテーマで低学年での器械・器具を使った運動遊びを中心に研究を進めている。特に，前年度までの研究を受けて学習内容の明確化と学習過程の工夫に焦点を当て，研究主題をもとに２つの仮説を立てた。１つ目が，学習内容を明確にし，指導方法や支援の仕方を工夫すれば，「できる」「わかる」という質の高い喜びを味わわせることができるであろうということ，２つ目が，運動の特性に十分ふれる中で，体育学習における言語活動を充実させ，仲間とかかわり合う場を位置づければ，互いのよさに学び合い，高め合うことができるであろうということである。そして，この２つの仮説のもと，『仲間とかかわり合いながら「できる」「わかる」喜びを味わわせる体育学習』というテーマで実践を行った。

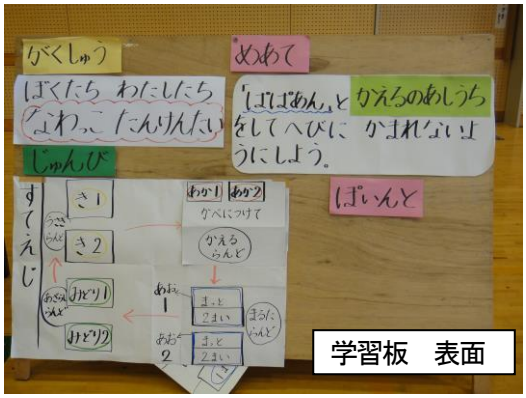
2　実践について

（1）会見スタンダード表を活用した学習内容の明確化について

右図は，南部町立会見小学校が作成されたマットのスタンダード表である。すべての児童に身に付けさせたい技能をスタンダードと呼び，全校で活用されている。まず，体育学習を「支える学習」「基本学習」「発展学習」の３つの学習で構成し，その領域の運動に必要な基礎感覚を身に付ける学習や本運動につながる予備運動としての学習を「支える学習」としてある。次に，すべての児童に身に付けさせたい技能（スタンダード）を習得する学習として「基本学習」（スタンダード），よりレベルアップした技能に挑戦する学習を「発展学習」としてある。このスタンダード表を名和小学校でも活用させていただいた。各学年で身につけさせたい技能がはっきり提示されていることから，つけたい力，本時の学習の内容を明確にして授業づくりができるようになり，名和小学校においても効果的であった。

会見小学校　マット　学習モデル

支える学習	基本学習（スタンダード）	発展学習
・全ての技のもとになる運動 ・必要に応じて全学年で扱う ・低学年では特に広く経験させる ゆりかご 丸太転がり 前転がり 横転がり かべのぼり ブリッジ アザラシ	1年　ゆりかご　丸太転がり カエルの足うち 前転がり　川とび	後ろ転がり　首倒立 ゆりかご→　前転がり ゆりかご→　後ろ転がり
	2年　後ろ転がり　首倒立 かべのぼり逆立ち	首倒立→ゆりかご→前転がり 首倒立→ゆりかご→後ろ転がり
	3年　前転　壁倒立 腕立て横跳び越し	後転　前転→後転 連続前転
	4年　後転　ブリッジ 補助倒立	側方倒立回転 開脚後転　頭倒立
	5年　側方倒立回転　頭倒立 開脚前転・後転	倒立前転　跳び前転 開脚前転→　前転 開脚前転→　後転
	6年　倒立前転　ロンダート 跳び前転	伸膝前転　伸膝後転 ロンダート→　前転 →　開脚前転



学習板　表面

（2）学習内容の工夫について

①学習板の活用について

学習板の表面には，本時のねらいや学習の流れ，場の設定図，技能ポイントを絵や言葉で掲示した。裏面には，単元を通しての学習の流れを図で示した。それによってどの児童も見通しを持って安心して学習に取り組んだり，次への学習の意欲を持って日々を過ごしたりすることができた。

また，最後のふりかえりで行う「今日のキラリ」タイムで発表された学習中頑張っていた児童や友だちに声をかけ合いながら意欲的に学習に取り組んでいた児童の名前や顔写真を掲示した。自分の顔写真が貼られると嬉しくて休み時間に何度も確認している児童の様子が見られ，次時への意欲につながった。

学習板　裏面

②ストーリー性を持たせた単元づくりや場の設定について

低学年では，児童が意欲を持って運動できるようにストーリー性を持たせた単元づくりや場の設定を行った。今回の実践では，「ぼくたち　わたしたち　なわっこたんけんたい」という単元名を設定して行った。色別ごとに探検チームを構成し，子どもたちがわくわくするジャングル探検をイメージさせながらストーリー性を持たせ，音楽を有効に活用しながら，マット遊びの楽しさやおもしろさを体感させた。

また，すべての児童に確実にスタンダードを身につけられるように課題に応じた場の設定を工夫した。右写真は，児童がジャングル探検中，ヘビの潜む場所を無事に通過するためにカエルの足うちに取り組んでいる場面である。コーンにヘビの絵を貼り，「このヘビより高く腰を上げてカエルの足うちをしないとヘビにかまれてしまう。」というストーリー性を持たせた場の設定を行った。子どもたちは，「ヘビにかまれたくない。」という一心で怖がらずに自然と腰を高く上げてカエルの足打ちをすることができるなど，お話の中に入りこみ，楽しみながら技を習得することができた。

カエルの足うち

通常は個人の種目になりがちな器械運動を探検隊というチームで目標を達成させる仕組みを設定した。それによって互いに声をかけ合って目標を達成しようとしたり，技の習得を「ナイス！」「いいよ！」などと言いながらハイタッチをして喜び合ったりすることができた。また，友だちのよいところを認め合い，雰囲気を高めながらマットで回ったり転がったりする楽しさや喜びを味わわせることができた。

補助をし合う姿

③言語活動の充実について

１時間の学習の中に，全体で話し合う場面を設定した。どうすれば本時の学習内容である技ができるようになるのか成功例や失敗例からポイントを見つけさせ，子どもたちの気づきや表現で押さえていき，みんなで課題を解決できるようにした。技のポイントを押さえることでポイントの声「手をパンとついて」「腰を高く」などをお互いにかけ合いながら技の習得に取り組んだり，ポイントを意識して補助し合ったりする姿が見られるようになった。

学習の最後にはふりかえりの場面を設定し，「かかわる」「できる」「わかる」の３観点を◎〇△で学習カードに自己評価させた。「友だちのキラリ」で友だちのがんばりやよさも記入させ，お互いの良さから学び合える肯定的な仲間作りへとつなげられるようにした。

できた時のハイタッチ

３　成果と課題

〈成果〉

〇会見スタンダード表を活用させていただくことで，学習内容やつけたい力が明確となり，スタンダードを習得するための段階を踏まえた単元計画を立てることができた。

〇学習板を活用することで，やるべきことやポイントがはっきりとわかり，見通しを持って目標に向かって意欲的に取り組む児童の姿が見られた。

〇ストーリー性を持たせた単元や場の設定づくりは低学年のやる気を引き出すためにたいへん効果的であった。運動に苦手意識を持っている児童も，ストーリーの中に入りこんで自然と夢中になって取り組み，楽しく学習しながら自分のできることが増えていき，自信につながった。また，友だちとかかわり合いながらめあてを達成することでお互いに励まし合い，お互いの頑張りを賞賛し合う姿が学校生活のあらゆる場面で見られるようになった。

〈課題〉

●どの児童にもスタンダードの技能を身につけさせるためには，個別の支援が不可欠である。１時間ごとの児童の姿を評価し，次時への手立てへとつなげていき，指導の充実を図っていきたい。また，スタンダード表に示されている技から，具体的にどのような姿をねらうのかをあらかじめ持って指導していきたい。

●ねらいを達成するための話し合い活動をより充実させるためには，発問の工夫が大切であると感じた。どのように問いかければ，児童が問題意識を持ち，ポイントに気づき，自らねらいを達成しようとすることができるのか考えていきたい。